復活 等 Ⅱ イエスの死、復活、そしてその時、聖なる者たちの体も生き返る

マタイによる福音書 27：45～56
45 さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。47 そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。48 そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。49 ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。
50 しかし、**イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。**
51 そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、52 **墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体**（→KING JAMES BIBLE：many bodies of the saints which slept arose／New King James Version：many bodies of the saints who had fallen asleep were raised）**が生き返った。**
53 そして、（彼らは）**イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。**
54 百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。55 またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。
56 その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

イエスが十字架で死なれた時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂けたりなど、驚くべき現象が次々に起こりました。その中でも注目すべきは、「**墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った**」ことです。彼らは一体何者で、何人くらいいたのかなど詳しいことは何もわかりません。分かることは、彼らが**聖なる者たち**だったということ、そしてマタイ 27：53 を見ると、彼らは、「**イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた**」ことです。彼らは、死と陰府に対するキリストの勝利を記念する者として、神（主）が復活させられたのです。

「キリストの復活のときによみから出て来た者たちは永遠の生命によみがえったのであった。彼らは、死とよみに対するキリストの勝利を記念する者として、キリストと共に昇天した。・・・これらの人たちは都へ行って、多くの人に現われ、キリストが死人の中からよみがえられ、われわれはキリストと共によみがえったのだと宣言した。こうしてよみがえりについての聖なる事実が不滅のものとなった。」
参考：希望への光 P.1091（各時代の希望 下 P.317）エレン・G・ホワイト 著 福音社

彼らはラザロやヤイロの娘のように再び死ぬ体で生き返ったのではなく、永遠の命に復活したと記されています。

ところで、この聖なる者たちが復活したタイミングは、イエス様が十字架で死なれた時でしょうか、それとも復活されたときでしょうか。マタイ 27：50～52 を見ると、イエス様が十字架で亡くなったときに生き返ったように書かれてあります。しかし、「**キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました**」（コリント一 15：20）、「**御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です**」（コロサイ 1：18）とあるように、キリストよりも先に復活したとなると順番がおかしくなります。

マタイ 27：53 を見ると、「（彼らは）**イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた**」とあるように、イエス様の復活まで墓の中にいたことがわかります。

「**生き返った**」と訳されているギリシア語動詞「エゲイロー」は、復活を指すだけではなく、「（穴から）引き出す」とか、「起き上がる」などの意味もありますので、イエスが死なれたときに発生した大地震により、墓から聖なる者たちの骨が飛び出したと言うことではないかと思われます。そして、イエスが復活されたとき、後に続くように彼らも復活して墓から出てきたと考えられます。
重要なことは、いずれにしても、彼らがイエス様の勝利と栄光の証として復活したということです。

【参考】キリストは、よみがえられた時、多くのとりこ（→擒・虜：あることに心を奪われた人）をよみ（→陰府）からおつれになった。キリストがなくなられる時の地震で墓が口を開き、キリストがよみがえられると、彼らはキリストといっしょに出てきた。彼らは神と共に働いた者、生命を犠牲にして真理のためにあかしをたてた者たちであった。いま彼らは、彼らを死人の中からよみがえらせてくださったキリストの証人となるのであった。

キリストは、その公生涯の間に、死人をいのちによみがえらせられた。彼はナインのやもめの子と、会堂司の娘とラザロをよみがえらせられた。しかし、彼らは不死を着せられなかった。彼らはよみがえってからも、やはり死ぬべき体であった。しかし、キリストの復活のときによみ（→陰府）から出て来た者たちは永遠の生命によみがえったのであった。彼らは、死とよみ（→陰府）に対するキリストの勝利を記念する者として、キリストと共に昇天した。この人たちはもはやサタンのとりこではない、わたしが彼らをあがなった（→贖った）のだとキリストは言われた。彼らがわたしのいるところに共にいて、決して死を見たり、悲しみを経験することがないように、わたしは彼らをわたしの力の初穂として、よみ（→陰府）からつれ出したのだ。

これらの人たちは都へ行って、多くの人に現れ、キリストが死人の中からよみがえられ、われわれはキリストと共によみがえったのだと宣言した。こうしてよみがえりについての聖なる事実が不滅のものとなった。よみがえった聖徒たちは、「あなたの死者は生き、彼らのなきがらは起きる」（イザヤ 26：19a→新共同訳：あなたの死者が命を得／わたしのしかばねが立ち上がりますように。）ということばが事実であることをあかしした。彼らのよみがえりは、「ちりに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は光の露であって、それを亡霊の国の上に降らされるからである」（イザヤ 26：19bc→新共同訳：塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、喜び歌え。あなたの送られる露は光の露。あなたは死霊（しりょう）の地にそれを降らせられます）という預言の成就についての 1 つの例であった。

信じる者にとって、キリストはよみがえりであり、命である。罪のために失われた命は、われらの救い主をとおして回復される。なぜなら、キリストはご自身のうちに命をもっておられて、みこころのままに人をよみがえらせられるからである。主は不死を与える権利を受けておられる。キリストは人性のうちにあってお捨てになった命を、ふたたびとりあげて人類にお与えになる。キリストはこう言われた、「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」（口語訳：ヨハネ 4：14）、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」（同：ヨハネ 6：54）、「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」（同：ヨハネ 10：10b）。

信じる者には、死は小事にすぎない。キリストは、それをたいしたことではないかのように語っておられる。「もし人がわたしの言葉を守るならば、その人はいつまでも死を見ることがないであろう。……わたしの言葉を守る者はいつまでも死を味わうことがないであろう」（同：ヨハネ 8：51b、52c）。クリスチャンにとって死は眠り、一瞬の沈黙と暗黒にすぎない。生命はキリストと共に神のうちにかくされ、「わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう」（コロサイ 3：4）。

キリストが十字架から「すべてが終った」（ヨハネ 19：30→新共同訳：成し遂げられた）と叫ばれた声は死者の中にも聞こえた。その声は墓の壁をつらぬいて、眠っている者たちに起きよと呼びかけた。キリストの声が天から聞こえる時もこれと同じである。

その声は墓所をつらぬき、墓を開き、キリストのうちにある死人は起きあがるのである。救い主のよみがえりの時には少数の墓が開いたが、再臨の時にはすべての死せるとうとい（→尊い）人々がキリストの声を聞いて、輝かしい永遠の生命に入るのである。キリストを死人の中からよみがえらせたのと同じ力が、教会をよみがえらせ・・・略・・・るのである（→エフェソ 1：20～23）。

参考：希望への光 P.1091～1092 エレン・G・ホワイト 著 福音社

NO COPY H.Taniguchi